RPA学習コース

第6回目: Orchestrator活用

2021年5月20日 19時

1HB-8S 黄 蔚菁

前回のおさらい

第5回目:高度なUiPath機能(3)

▶ OCR操作:画像から文字を抽出

▶ 画像識別:セレクタのないUIを操作

RDP: リモート端末の自動化

前回宿題の解説

~~第五回目宿題の解説&質問コーナー~~

宿題内容: リモート電卓を操作する

■処理

メモ帳に書かれている計算式を拾い、電卓に移して計算し、計算結果をまたメモ帳に転記するロボットを作ってください。メモ帳はローカル環境のメモ帳、電卓はリモート環境の電卓を使ってください。

前回宿題の解説初期設定

- ▶ リモート環境で「UiPathRemoteRuntime」のインストール https://download.uipath.com/UiPathRemoteRuntime.msi
- ▶ UiPath開発環境で「RDPプラグイン」のインストール(次ページ参照)

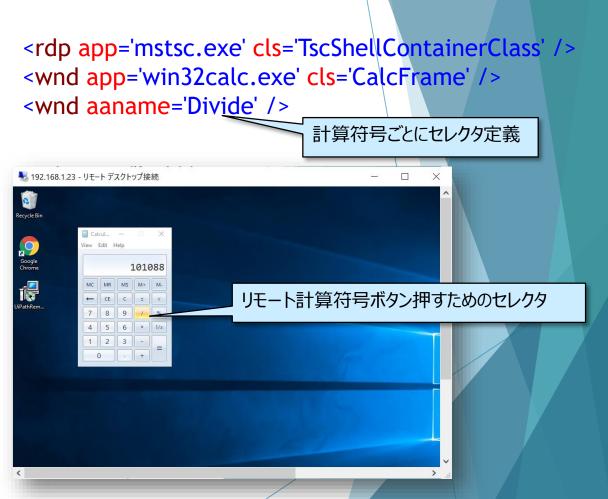


上記完了後、RPA内のUI要素が識別されるようになり、通常のロボプロセスと同様にRDP操作が可能に

前回宿題の解説

<rdp app='mstsc.exe' cls='TscShellContainerClass' />
<wnd app='win32calc.exe' cls='CalcFrame' />
<wnd aaname='{{入力符号}}' />





前回宿題の解説

処理フロー

RDP接続

メモ帳から入力文字列を取得

RDP内の電卓アプリを起動

文字列のキャラ毎に

電卓ボタン押下

電卓から計算結果をメモ帳に移す

本日の勉強会を終えると、あなたは...

- ▶ Orchestratorの概念と機能を説明できる
- ▶ 無料版のCommunity Orchestratorを利用することができる
- スケジュールトリガーのロボ定期起動ができる
- 今日の授業を終えると、あなたはこんなことができる!





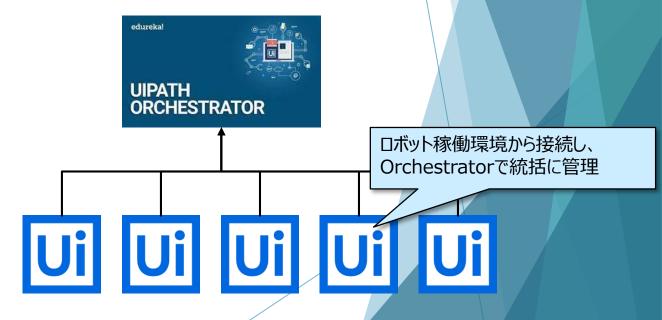
アジェンダ

- ▶ Orchestrator紹介
- ▶ Unattended□ボを動かそう
- ▶ 振り返り

Orchestratorとは?

Orchestrator(日本語:オーケーストレーター)、英語では、交響楽団の指揮者を意味する。UiPathの世界では、中心に立ってロボットの稼働環境やロボットプロセス、パッケージなどUiPathのすべての要素を統括に管理するウェブシステムである。





交響楽団のOrchestrator

UiPath世界のOrchestrator

Orchestratorの提供機能は?



※公式アカデミーの紹介: https://uipathrpaacademy.com/uipath-orchestrator/

Orchestratorある時とない時の比較 (一部)

※以降OrchestratorをOCと略称

比較項目	OCない時	OCある時
実行ログの確認	それぞれの端末にログインし て確認する必要がある。	100台の端末があっても、OC で一括確認可能
ロボットの自動起動	不可。手動で起動しなければいけない。	トリガ設定することで可能。
ロボットプロセス間の通信	同じ端末内であれば、ファイ ルシステムなど経由して可能	キューなど使えば、ロボット が同一端末内でなくても通信 可能
リリース管理	端末にログインしてデプロイ しなければならない	OCのみでリリース実施が可 能。
ライセンス管理	端末で別々に管理される	OCで一括に管理する
エラー通知	処理に組めばできる	ジョブ異常終了、端末異常があった際に通知する機能をもっている

Orchestrator紹介 ライセンスの値段について

UiPath

・「UiPath Studio」(開発が可能):約60万円

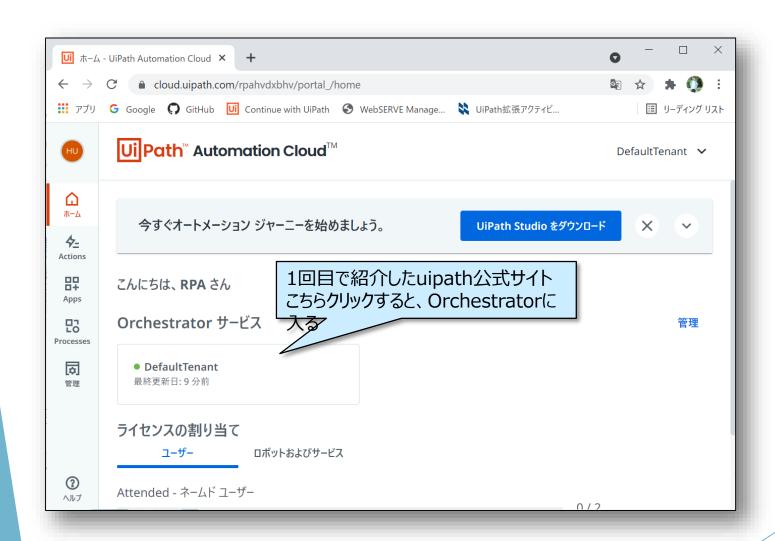
・「UiPath Orchestrator」(管理統制が可能):約250万円

参考URL:

https://www.persol-pt.co.jp/persolrpa/rpalounge/column11/

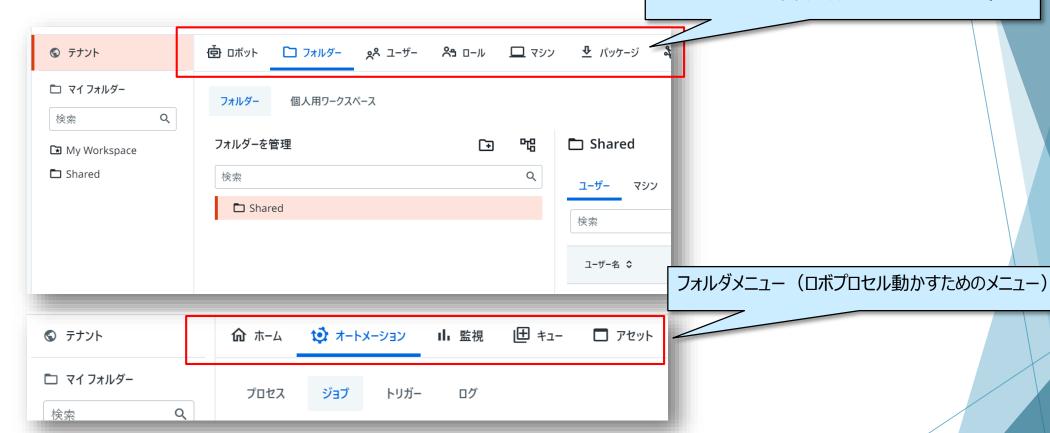
価格は少々高いが、Community版Orchestratorは無料でご利用いただけます!

Orchestratorを触ってみよう



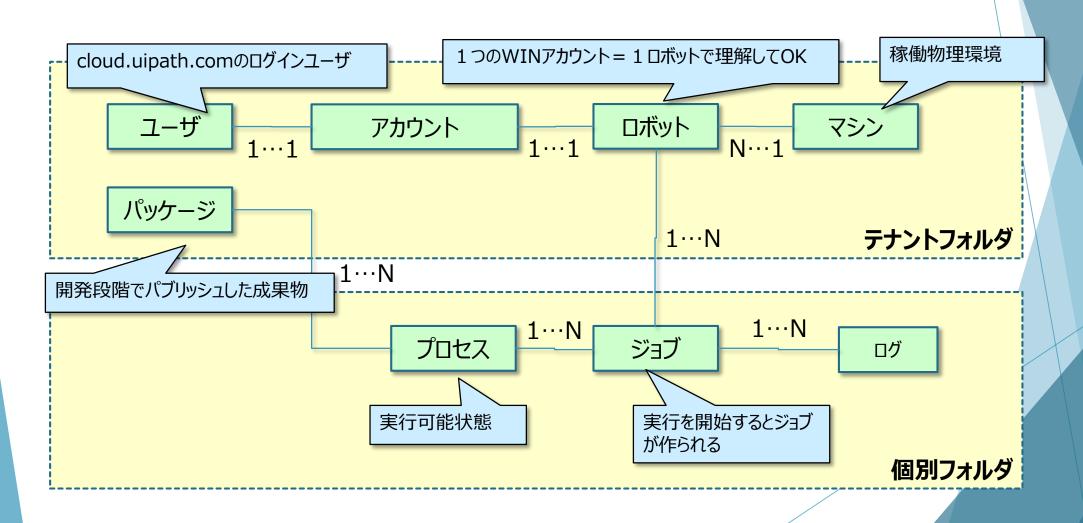
Orchestratorを触ってみよう

テナントメニュー(環境設定するためのメニュー)



Orchestrator活用

Orchestrator概念(Community版)のER関係性説明



Unattendedロボとattendedロボの違いは何?

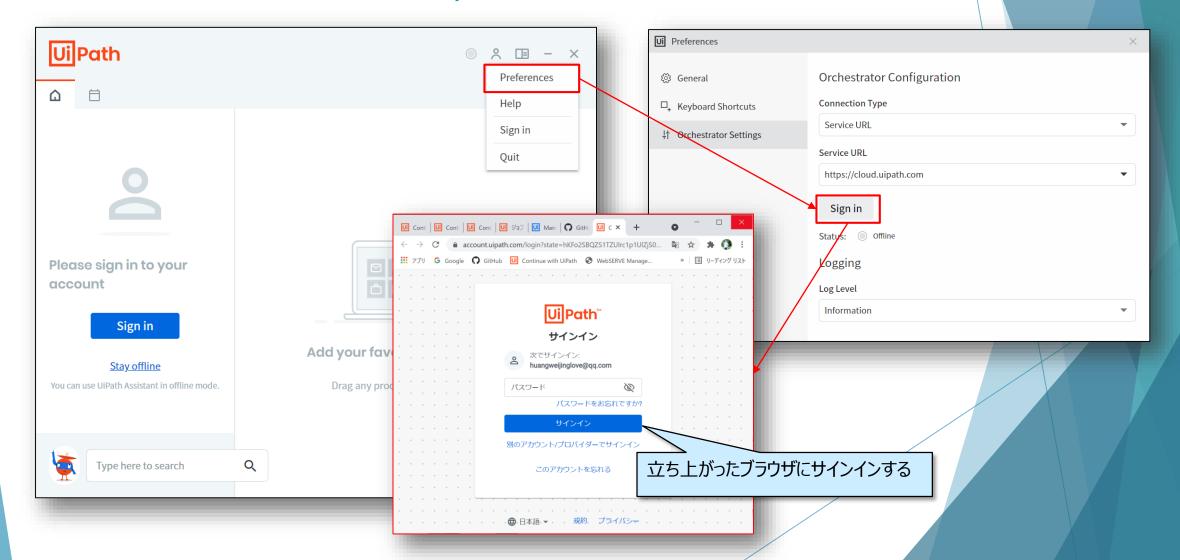
Attended(アテンディット/デスクトップ型/人間主導型) - 従業員のデスクトップ内にインストールし、**従業員の操作により動作するロボット**。

Unattended(アンアテンディット/サーバ型/ロボット主導型) - サーバー内の仮想マシンでも動作し、**従業員による操作が不要なロボット**。独立して常時稼働が可能なロボット。

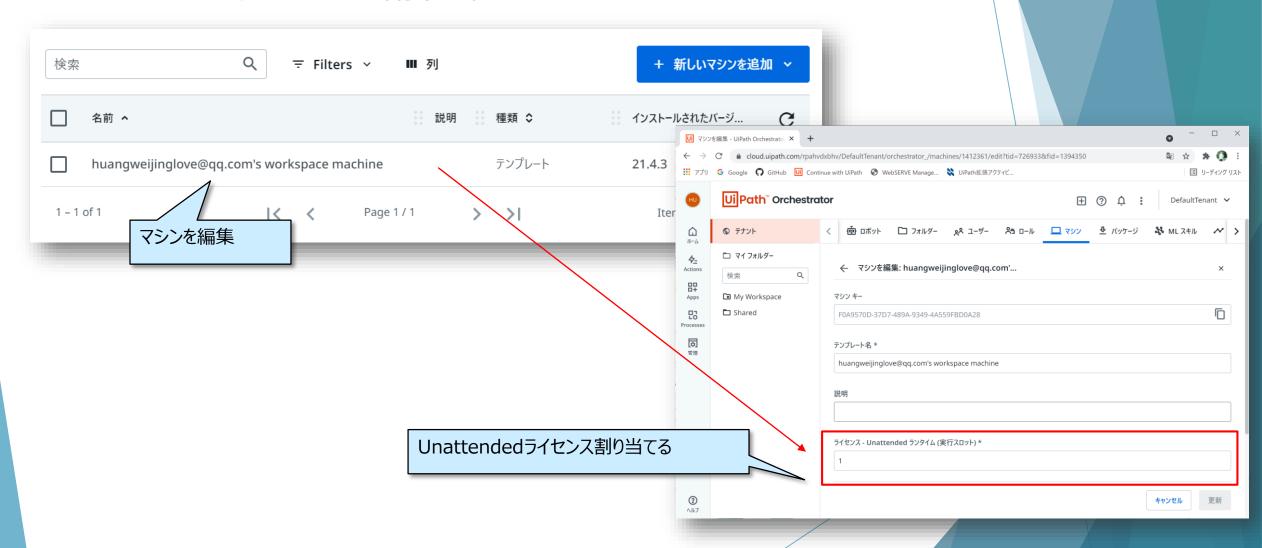
定期実行可能なロボットタイプ

※Unattendedロボについて、Community版のUiPathは一部制限があり、windowsにアカウントログインされてることが前提になっている。

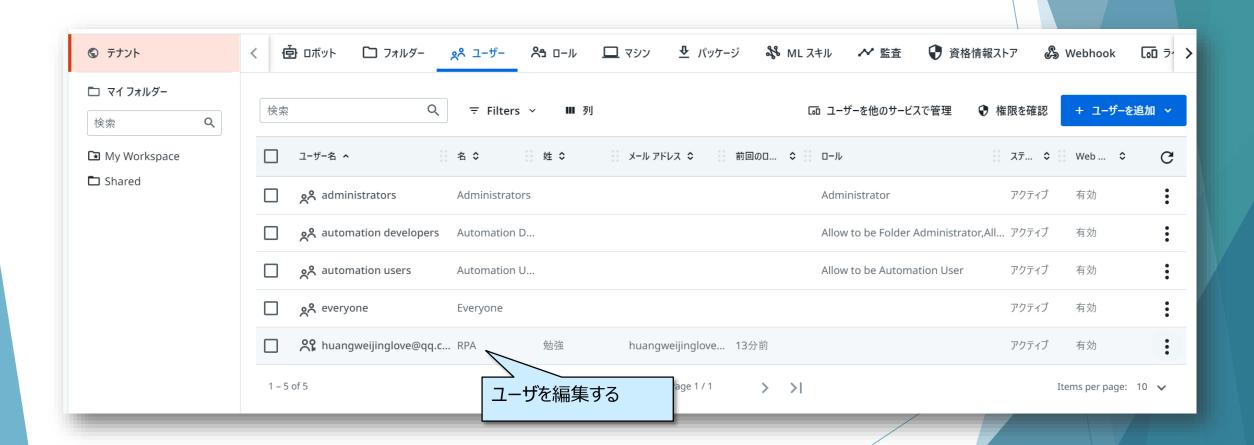
UiPath Assistantからcloud.uipath.comにサインイン



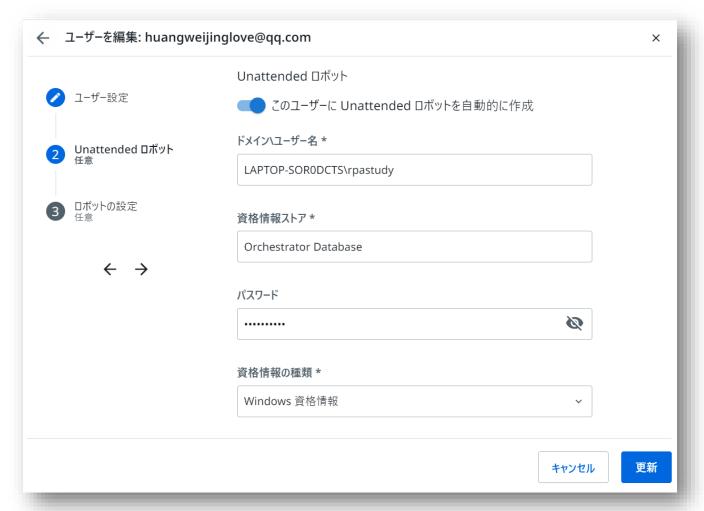
マシンにライセンスを割り当てる

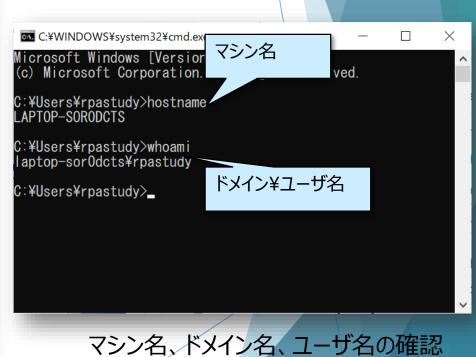


ユーザのWINアカウント情報を設定

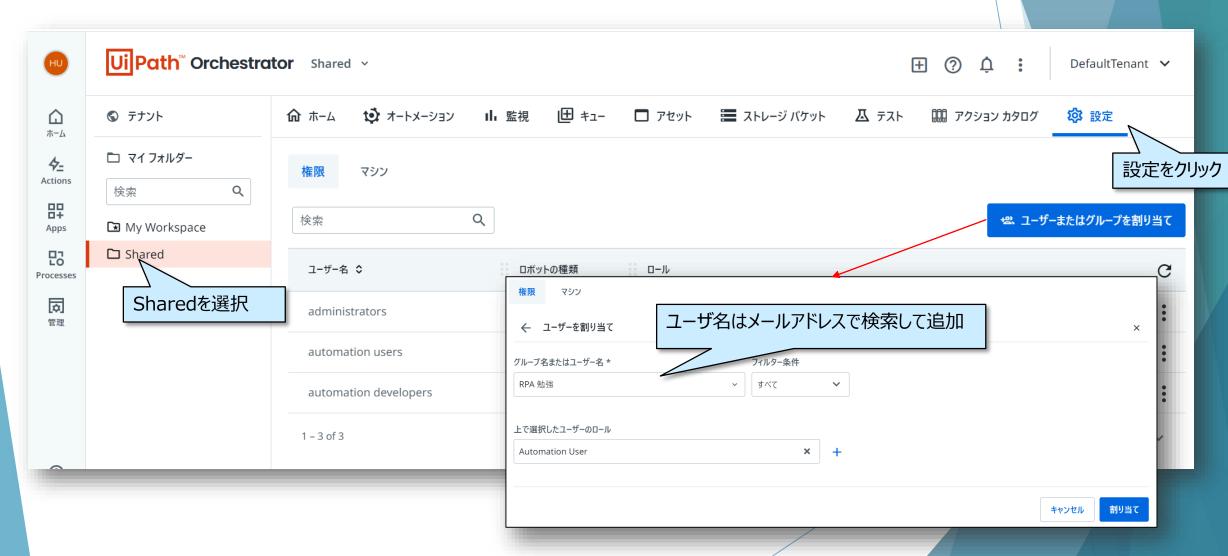


ユーザのWINアカウント情報を設定

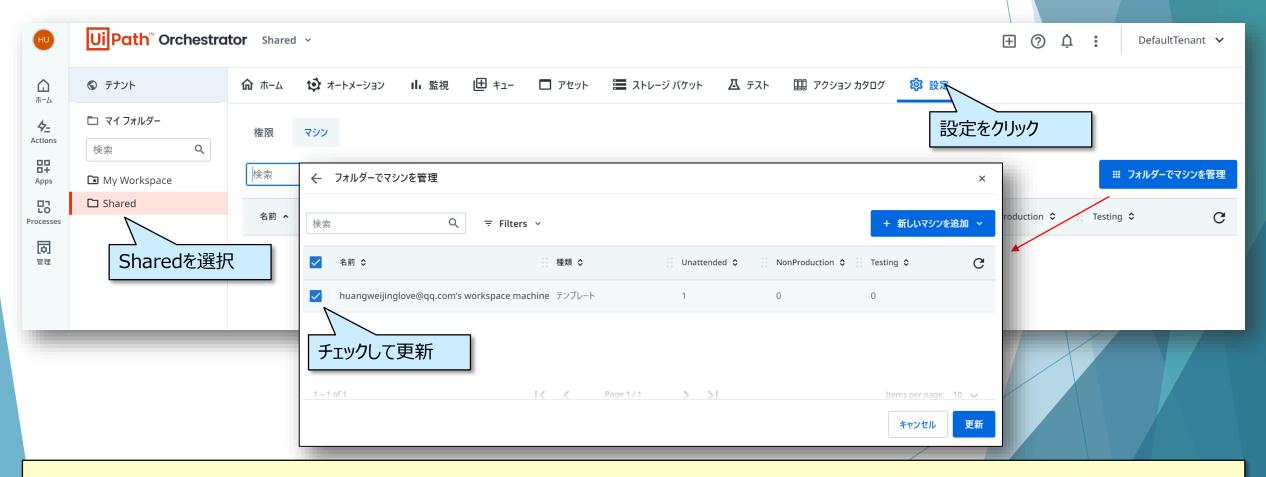




実行フォルダにユーザを割り当てる



実行フォルダにマシンを割り当てる



おめでとう!環境はここまで整えた

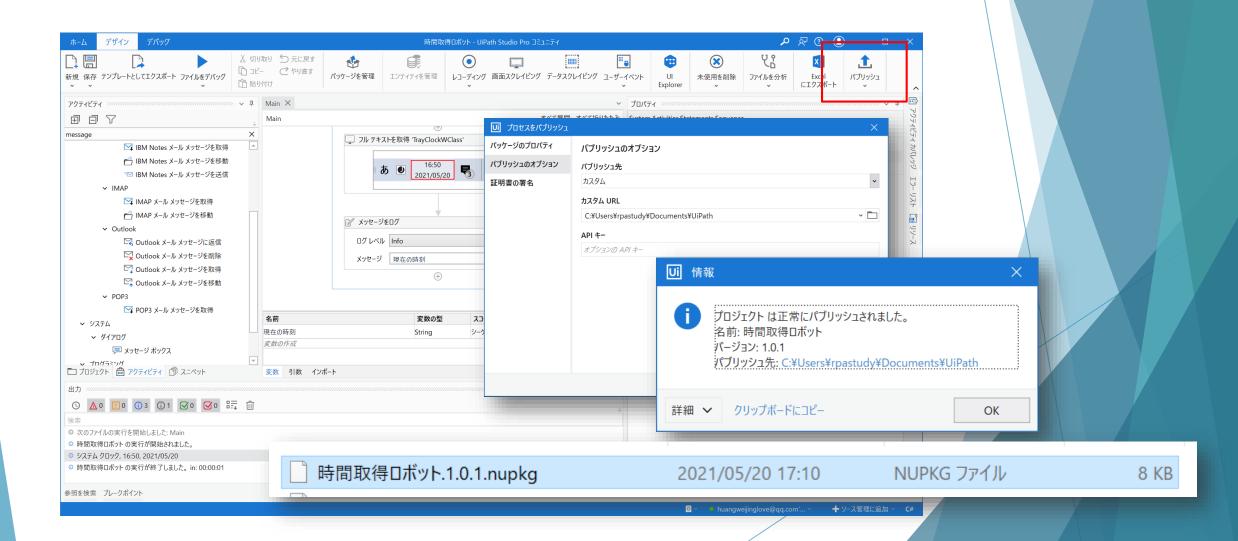
パッケージのパブリッシュ

練習時間(10分) ~~定期起動試し用のパッケージを準備~~

処理内容

- ①WINステータスバーの時刻日付を取得して文字列に格納
- ②上記時刻日付をログに出力
- ③上記プロセスを完成したら、パッケージ(*.nupkg)にパブリッシュしてください。

パッケージのパブリッシュ

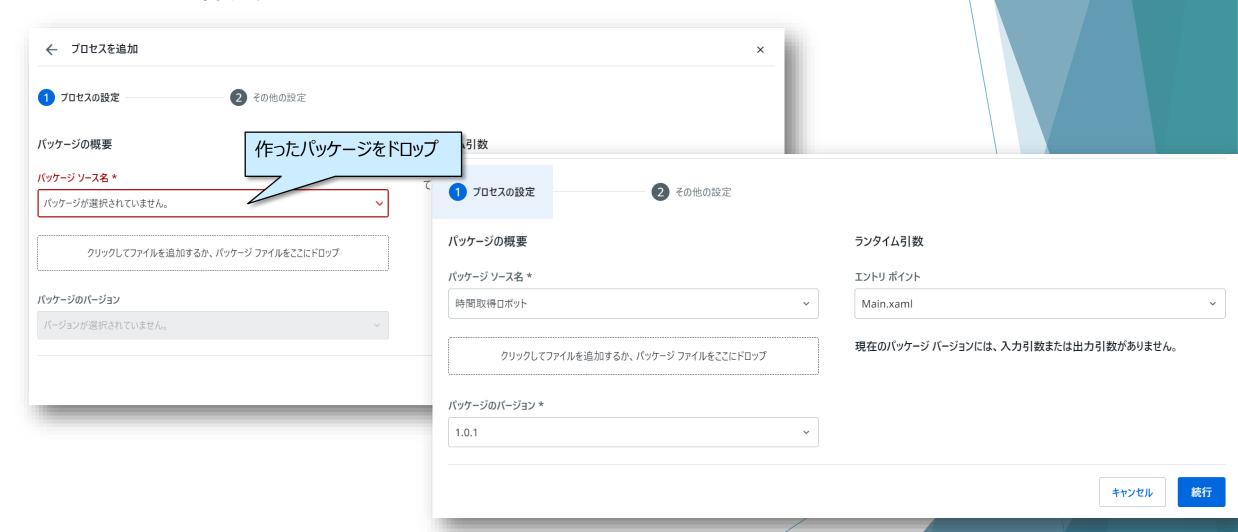


プロセスの作成

ここからは、パッケージをデプロイして自動実行する



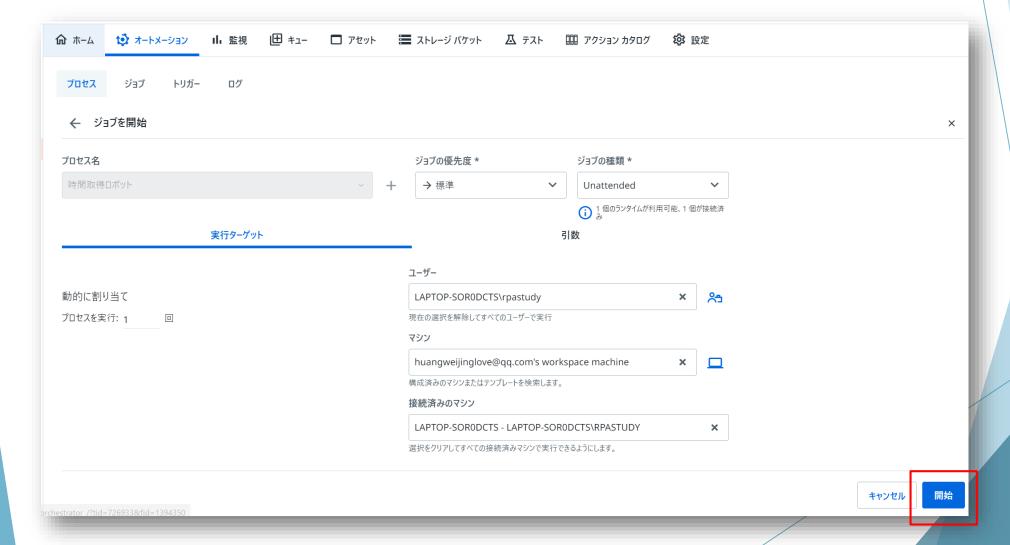
プロセスの作成



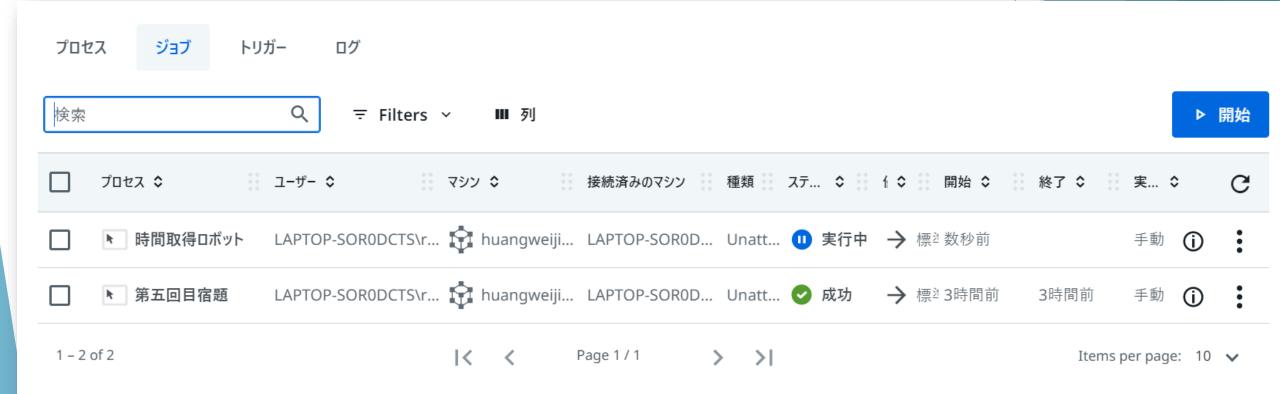
OCからジョブ実行



Unattendedロボット動かそう OCからジョブ実行

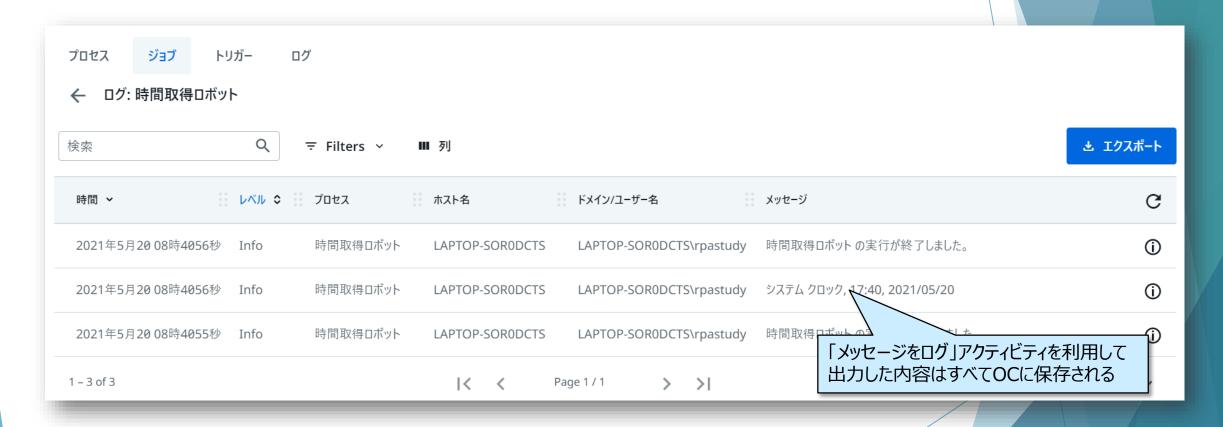


ログ確認

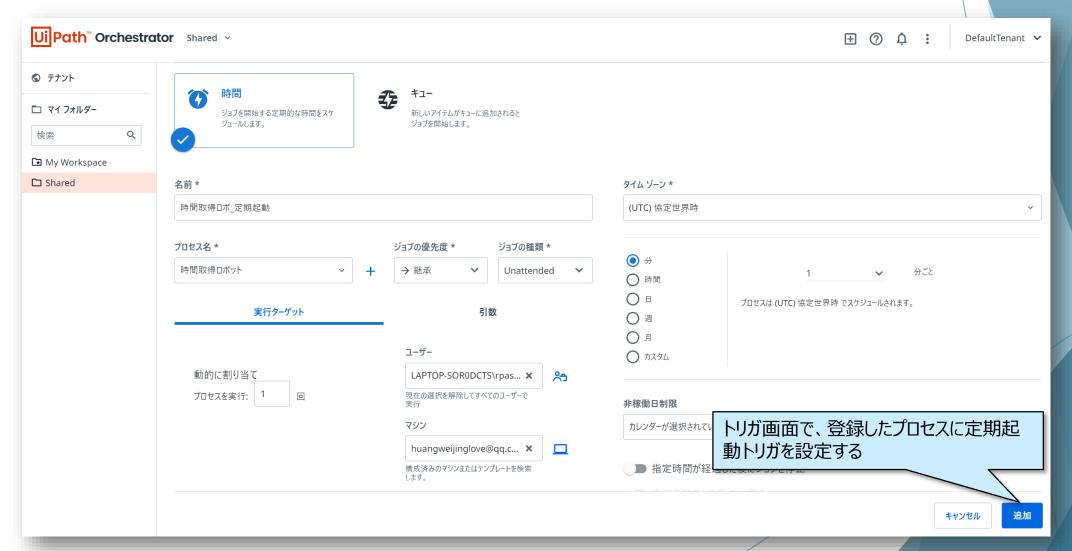


おめでとう!初めてのUnattendedロボが動いた

ログ確認



定期実行を設定してみよう



設定後の実行ログ確認



ちゃんと1分間隔で動いてるね!

質問コーナー

振り返り

- ▶ RPA概要(★)
- ▶ 開発環境構築(★)
- ▶ UI要素の操作(★)
- ▶ アプリケーション間のデータ連携(★)
- ▶ フロー制御(★)
- ▶ エラーハンドリング(★)
- データテーブルの操作(★)
- ▶ UiPathライブラリ
- ▶ カスタマイズコーディング(C#で実現)
- ► OCRの操作
- ▶ 画像認識でUI操作
- ▶ リモートデスクトップの操作
- ▶ Orchestrator紹介

本日は最終回です。 最終回まで頑張っていただいた参加者の皆様、 ありがとうございました!